

令和6年度あきた型学校評価シート
(秋田県立能代支援学校)

評価領域

教育課程・学習指導

重点目標	確かな学力を育てる教育課程及び授業の改善・実施		P
現 状	学習指導要領の改訂を受け、昨年度より本格的に運用を始めた「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」や個別の指導計画の作成と活用により、新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の編成と実施に取り組んできた。育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための教育計画の作成や授業づくりの仕組みの整備と授業実践を積み重ね、児童生徒の確かな成長につなげることを目指している。		
具体的な目標	職員及び保護者アンケートの各教科等において育成する資質・能力に関する項目で、肯定的評価を90%以上にする。		
目標達成のための方策	次を実施し、各教科等において育成する資質・能力を身に付けさせる授業づくりと実践をする。 ①観点別学習評価表と個別の指導計画、年間指導計画を関連付け、年間や単元で育成する資質・能力を明確化する。 ②指導と評価の一体化を図る授業づくりの工夫をする。 ③参加と学びを促す具体的な手立ての共有と実践をする。		
具体的な取組状況	上記方策について、校内研究として次のとおり実践した。 ①各教科等を合わせた指導において各単元で取り上げる各教科等の指導内容を明らかにするため年間指導計画様式を改訂した。 ②各教科で育成する資質・能力を単元目標に反映させるよう学習指導案様式を改訂し、授業実践を行った。 ③児童生徒の参加と学びを促す手立てを「能代スタンダード」としてまとめて共有し、日常的な授業づくりに活用した。 ④公開研究会を開催し、学習指導要領の趣旨や教育課程編成の在り方等について職員が理解を深めた。		D
達成状況	・学校評価アンケートの内、各教科等における資質・能力の育成に関する設問に対し、職員の100%が「よく推進されている」「推進されている」と回答し、保護者の93%が「とてもよい」又は「よい」の肯定的評価であった。		
自己評価	(評価) A	(根拠) ・授業づくりの仕組みが整備されたことにより、各教科等で育成する資質・能力が明確化し、各教科等を合わせた指導の目標設定に反映させた授業の計画と実施ができた。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・教科ごとに観点に基づく計画と評価があり、授業からは教員と子どもの一体感が感じられる。児童生徒との関わり方を含め公開研究会の内容は全国に発信できる内容である。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・今年度の取組を生かし、12年間を見通した学びを進めるため、教育計画作成に係る様式や手順を整備し、教育課程編成に生かす。 ・各教科等の見方・考え方を働かせる実践ができるよう、授業づくりの仕組みの日常的な活用と授業力の向上を図る。		A